

キャンパスを飛び出した先に答えがある

国内外で企業見学やボランティア活動、地域の人々との交流などに積極的に取り組み、文化や経済の問題を現地でリサーチ。それぞれのフィールドで研究を行っている教員が引率、指導します。ゼミナールは仲間づくりもしやすい環境です。

自分の興味の深め方。

YOU do YOU!
未来は、「あなた」次第。

矢嶋 ゼミナール

国際総合政策学科

ツーリズムをフィールドワークで研究!



周遊バスと電動自転車実証実験検証中



伊豆長岡温泉街でヒアリング中



矢嶋ゼミナールのメンバー(3年生)



宿泊プランパンフレットの写真撮影



周遊バス「のるーら」視察中



三島市長にプレゼンテーション



クリスマスパーティーなどイベントも充実!

矢嶋ゼミナールの特徴

矢嶋ゼミナールの主な活動は、企業や自治体との産官学連携プロジェクトです。連携先への訪問や地域住民との意見交換をすることで、実際に集客やプロモーションにつながる「結果の出る」活動をしています。

2021年度の主な活動

2年生は伊豆の国市や伊豆箱根鉄道等と連携して、観光向け周遊バス「のるーら」と電動自転車をセットにした観光コースの提言などを行いました。これは伊豆長岡温泉の活性化にも、公共交通機関を利用するインバウンド向けにも役立つ施策です。今後は伊豆長岡温泉バスターミナルに設置される観光案内所のコンシェルジュを担当する予定です。3年生は富士山三島東急ホテルと連携して、静岡緑茶とスイーツを楽しめる温泉付きディユースプランと、鉄道アメニティとトレインビューを満喫できる宿泊プランを考案し、実際に商品化されました。

身につくチカラ

ツーリズム産業の未来像の研究は、旅行・鉄道・航空・ホテル業界を目指す際のアドバンテージとなります。他業種を目指す場合にも、産学連携の研究活動で高い社会性を得られます。観光はコロナ禍で一時的に停滞しても、近い将来復活して日本経済の牽引役となることは間違いありません。観光の発展は相互理解による世界平和や消費による貧困解消など、様々な効果を生み出します。私たちと一緒にツーリズムのあるべき姿を学びましょう。

准教授 矢嶋 敏朗

※p.56「みしまさんぽ」は矢嶋ゼミナールの制作です。

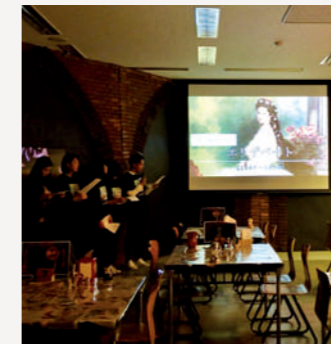
角田 ゼミナール

国際教養学科

仲間と一緒に創造力と行動力を高め合う



卒業論文発表会



海外ゼミテーマ「エリザベト」について研究発表



海外ゼミで訪れたパリ・ルーブル美術館



Bar Carlos (富桜祭) で生ハム販売



スペイン・サラマンカの小学校でゼミ生が授業



オックスフォード大学から列車でロンドンへ



仮装や漫才で盛り上がるクリスマス会

角田ゼミナールの特徴

キリスト教とスペイン精神文化を通してヨーロッパ文化を学び、多文化社会における判断基準や価値観を身につけます。さらに日本文化との比較研究を行うことで「外の世界から日本文化を客観的に見つめ直す俯瞰的視点」を養います。ディスカッションとプレゼンテーションを多用する対話型のゼミナールです。

主な活動と取組

研究テーマに関連したヨーロッパ国を複数訪問する「海外ゼミ」を毎夏実施しています。海外ゼミでの学びは富桜祭(学園祭)のスペイン・バル「Bar Carlos」で研究発表し、生ハム原木の販売や現地で購入した材料でザッハトルテ等を作り、リアルに海外を再現しています。これらはコロナ禍で一時中断していましたが、ゼミ生が制作したオリジナル動画をYouTube「カルロス・チャンネル」に投稿したり、学年縦割りグループで「バーチャル海外ツアー動画」を制作してコンペを実施したり、何気ない日常を気軽に話す「Webティー・トーク」を開催するなど、ゼミ内のコミュニケーションや各自のプレゼンテーション能力を向上する取組を行っています。またゼミのOB・OGに就活アドバイスや業界の実情を聞ける「カルロスの小部屋」、ゼミ内でのES添削や面接指導で就職活動を支援しています。

身につくチカラ

「一緒に学び、考え、創ること」「楽しみを共有すること」「人とつながる方法」が身につきます。ヨーロッパを題材に「まだ動き始めている自分がこれから変わっていくこと」を学んでいきましょう。

教授 角田 哲康

なぜ今「国際」なのか？

自由に海外渡航や留学がかなわない今、国際関係学を学ぶ意義とは？
「国際」の共通キーワードのもと、バラエティに富んだ研究を行う本学部のゼミナール活動を通して、その問いの答えを紐解いてみましょう。



国際貿易を通じて日本と世界の経済関係を明らかにする

小田ゼミナールでは、国際経済、貿易、途上国開発といったテーマに沿って一人ひとりが課題を設定し、研究に取り組みます。この2年は留学など直接的な国際交流が行いにくい状況でしたが、通信技術の進展により海外との接触はむしろ容易になったため、ベトナムやニュージーランドなどで活躍する専門家と教室をリアルタイムでつないで活発な議論を行っています。ゼミナールでは高いレベルの学びにチャレンジできるのももちろんのこと、発表や仲間のコメントに答える作業により、将来社会に出てから必要となる企画・発想力、プレゼン力が向上します。

小田 ゼミナール

国際貿易、
開発経済を学ぶ意義

准教授 小田 正規

日本や世界が直面する、既存の常識では解決できない課題に対する「処方箋」が作成できるようになります。世界の動きに触れることで「国際対応力」が向上します。ゼミナール活動こそ大学の醍醐味。仲間たちと充実した大学生活を送りましょう。



資産運用の知識を習得してライフプランを実現する

日本では少子高齢化で財政がひっ迫し、消費税や社会保険料が上昇する一方で、年金給付額や賃金が減少しています。さらに国債の乱発による円安の進行や資源価格の上昇が生活不安に拍車をかけています。ハイパーインフレーションが日本で起こる可能性は日増しに高まっていると言えます。先が見えないこのような時代を前にして頼るべきは国ではなく自分の知識です。寛ゼミナールでは、人生のライフプランをシミュレーションし、どんな状況下でもそれを実現するための資産計画を策定する方法を学びます。人生は夢を持ち、それを実現するためにあるのです。そのような夢の実現の一助となるのが当該ゼミナールの目標です。

寛 ゼミナール

国際的な資産形成を
学ぶ意義

准教授 寛 正治

今後日本の資産価値は毀損する可能性が大きく、国際的な資産形成が重要です。そのためには外国語の理解と国際的なポートフォリオ形成への知識が欠かせません。



中国経済、産業ビジネス、企業海外展開の実態

国際的存在感を増す中国について国際経済、国際ビジネス面から考察します。日中関係を中心に、東アジア・東南アジア地域の安定や持続的発展のために必要なものが何かをゼミ生同士と一緒に考え、分析していきます。通常時は学んだことの実践として、夏季休暇を利用して海外研修(中国)や海外日本企業見学を実施しています。コロナ禍で中止となっていたこのプログラムが、新年度では状況を見極めた上で再開することを期待し、経済やビジネス基礎知識、語学の事前学習を積極的に行っています。巨大化した中国が日本にとって脅威か、それともチャンスか、一緒に確かめてみましょう。

陳 ゼミナール

中国経済、
中国ビジネスを学ぶ意義

教授 陳 文挙

日本の最大の貿易相手国であり、経済・ビジネス関係が深まる中国。基礎知識を勉強し実体験も行い、理論と実践の両面から理解することを通じて、国際ビジネスに必要な考察力と仕事に欠かせないスキルを身につけることができます。



韓国研究、日韓関係、北東アジアの安全保障と国際関係

韓国の歴史、文化、日韓関係などを研究します。駐横浜大韓民国総領事館主催の韓国語スピーチ大会への参加や夏季休暇には韓国を訪れ韓国の歴史・文化遺跡地を見学するとともに、提携校の大学を訪問して韓国の大学生と日韓関係についてディスカッションや発表会を行います。通常開催時の富桜祭(国際関係学部の学園祭)では韓国料理店を出店し、親睦を深めていました。「国際」を学ぶ上では、研究対象地域を訪れ、実際に自分の目で見て、肌で感じ、また同世代の人と直接話すことが何より重要です。同じ関心を持った学生と一緒に研究できる楽しみを味わってみてはいかがでしょうか。

鄭 ゼミナール

国際政治、安全保障論、
日韓関係を学ぶ意義

教授 鄭 勛燮

韓国社会の全般的な理解に役立つことはもちろん、日本文化の魅力を再発見する契機となることも期待できます。ゼミナール生には将来、日韓の絆をより一層深めていく活動を続けてもらいたいです。



異文化コミュニケーションの諸問題に関する分析

グローバル社会における異文化交流とコミュニケーション活動を、文化・社会・言語・教育から多角的に考えます。毎週の発表とディスカッションに加えて、3年生ではディベートを実施しています。担当学生が事前に決めたテーマについて、賛成派と反対派に分かれて議論を進めます。最近のテーマは「ゴミの収集は有料化するべき」「ペットの売買は禁止すべき」「日本は移民を受け入れるべき」など。皆さんは賛成と反対の論拠をいくつ言えますか。ゼミナール活動によって、自分の意見を分かりやすく伝えるための訓練を続けています。

生内 ゼミナール

グローバル社会の
コミュニケーション学を学ぶ意義
はえのうち
教授 生内 裕子

コミュニケーション力が鍛えられると、リーダーシップと協働力が身につきます。また、国際社会における問題解決には、文化・歴史・経済・法律など広範な知識が必要です。本学部で得られる総合力はあなたの強みになります。



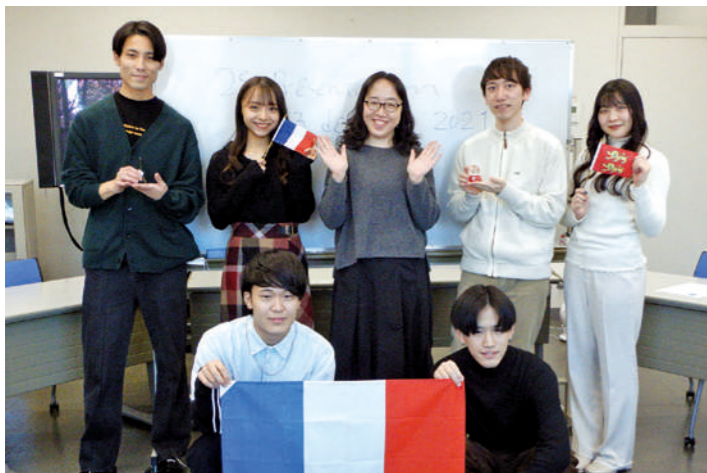
日常の経験を心理学的に考える

新型コロナウイルスによる感染症が世界に出現してから2年。ウイルスに国境はなく、世界的な広がりをみせていますが、その対処法は国や民族、文化によって異なります。人間の思考や認知は、複雑な世界に適応するために様々な仕掛けを持っていますが、それが思い込みや偏見につながる可能性があります。ゼミナールでは、そのような人間の認知の特徴を踏まえ、客観的な規準に沿った思考であるクリティカル・シンキングを学び、自ら設定したテーマをクリティカルに追究します。自分を枠にはめず好奇心を探求し、価値観の違う人とも開かれた議論をしましょう。

伊坂 ゼミナール

文化とこころの
相互関係を学ぶ意義
教授 伊坂 裕子

様々な現象の背後にある文化や価値観の違いを学ぶことは今こそ重要。クリティカル・シンキングは、人生や社会の問題に立ち向かう際の武器になります。科学的に見せかけた情報に惑わされて、偏った考えで世界を見まわさないようにしましょう。



フランス語文献を読解しながらフランス文化を学ぶ

このゼミナールでは各自がフランス文化に関する自分の研究テーマを決めて、発表とディスカッション、資料作成やレポート執筆を通して研究を深めます。その過程で、他のゼミナール生のテーマとの関連性や、ヨーロッパ史におけるフランス史の位置付け、過去の出来事と現代の状況の連関性等を学びます。そこでは常に自国文化の問い直しもなされます。つまり毎回の活動が、国際的な視野を広げ、世界を取り巻く様々な問題への意識を高めていくのです。数名の小さなゼミナールの中でも、自分たちの思考が世界へと上げられる感覚を共有できます。

橋本 ゼミナール

フランス文化を
学ぶ意義
教授 橋本 由紀子

フランス文化は「人間とは何か」を探求し、それを多様に表現してきました。世界における人間の在り方を考え、それを表す言葉の力を知ることは、今後自分たちが直面する諸問題に対する武器となるでしょう。文化の学びは「自分の精神の耕し」です。自分が生きる世界をダイナミックに探求しましょう！



「教育」について客観的・批判的に考える

教育学のゼミナールです。問いの立て方やエビデンスに基づいた説明方法などを学び、グループ発表と個人発表を行い、最終的にレポートにまとめます。今年のゼミナール生が設定したテーマは「部活動の国際比較」「教員の多忙化」「日・中・韓の小学校英語」「日本語教育の課題と対策」などです。社会に出てから必要なスキルのひとつである客観的思考、批判的思考、文章作成能力、プレゼンテーション能力を鍛えます。併設の日本大学三島高等学校・中学校を訪問し、実際の授業や現場の先生方の業務を視察するとともに、教頭先生に現場の実態を教えていただく活動も行っています。

富士原 ゼミナール

教育の背景にある
多様な要因を学ぶ意義
教授 富士原 雅弘

「教育」を構成する要素は学校や先生だけではありません。国際関係はもちろん、政治・経済・社会・文化・歴史・宗教・ICT・慣行など、多くのものとの関係性を持ちながら成立しています。教育全般、日本語教育に興味がある方は、ぜひ一緒に勉強しましょう。